



会報

第33号

平成10年9月

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 電話011-644-4025



三岸好太郎 「飛ぶ蝶」

1934（昭和9）年 121.2×84.9cm
北海道立三岸好太郎美術館蔵

「窓カラヒラヒラト飛ンデキタ蝶ハ／呼吸シナイ白
イ壁ニ足ヲトメタ／蝶ノ冬眠ガ始マル／而シ押エラレ
タピンヲハネノケテ再ビ飛ビ出ス事ハ自由ダ」

三岸好太郎自作の詩『蝶と貝殻（視覚詩）』の一節である。この詩を発表して間もない1934（昭和9）年の7月、三岸はわずか31歳でその生涯を終えた。

詩で描写されたイメージがそのまま油彩画の「飛ぶ蝶」にも見出される。

白い壁にピンで止められ、くっきりと影を落とす色とりどりの蝶。三岸自身のアイデアで、額縁には金属パイプが使われており、まるで標本箱のようである。

その中の一匹が、止められていたはずのピンをはねのけて舞い上がろうとしている。不思議な白昼夢のような光景。

現実にはあり得ないイメージを描き出すこうした表現には、当時最新の芸術思潮であったシュルレアリスム（超現実主義）の影響もうかがえるが、作品から香り立つみずみずしい詩情は、まぎれもなく天性のロマンチスト三岸独自のものである。

10年あまりの短い画業のうちにめまぐるしく作風を変貌させた三岸が、最後に到達した夢幻の世界である。

司 会 昨年は、協力会創立二十周年の記念の年でした。これを大きな節目として、本年度から新たな視点で会の維持発展に努めなければなりません。この機会に、六月の定例総会で選任された新理事五人の方々に忌憚のないご意見をいただくことになりました。

早速ですが、はじめに理事就任の抱負等からお伺いします。



石 水 このたび理事に就任することになりまして、所感を述べたいと思います。

実は、「アルテピア」の存在も、名前自体も知らなかったというのが実際のところなのです。しかし、私自身は美しいものを観たり、聞いたりすることは大好きでございまして、その為のお役にたつことは積極的に協力していきたいと考えてお

ります。

佐藤 このたび、美術館協力会への入会にあたりまして、理事としての役職を全う出来ますよう努力する所存でございます。よろしくご指導ご鞭撻の程をお願いいたします。

下田 格別、美術の知識、経験があるわけでもなく、会社以外の組織運営に携わった経験ありませんので、「抱負」などを口にできる身ではありません。

ただ、「アルテピア」の活動は意義深いものだと、かねてから思っていましたので、幾らかでもお役にたてれば幸いと思っています。

棟 「就任の抱負」といっても、セ

リフのない
チョイ出役
から、急に
セリフの言
える役を当
てられた大
部屋老俳優
の心境です。
これから会
の実態をよ
く掴んで徐々

にエンジンをパワーアップさせ、会のサポーターになれたらと思っております。



山口 協力会で多くの方々とお会い、いろいろな経験をさせて頂いたボランティア活動を二十

年の節目で、私なりに卒業させていただき、今後は今までの体験を生かして、ボランティア活動員の方々が、生き生きとした楽しい活動が出来るよう何かお役に立てればと思っております。

司 会 さて、当協力会は昭和五十二年に創立され、発足当時一一〇名であった会員は、現在約一五〇〇名になっております。

しかし、今後の会の円滑な運営とより充実した活動を展開するために、更に多くの会員の確保と資金の拡充が必要でありまして、「会員の拡大」は当会の最も大きな課題として取り組んでおりますが、このことについてのお考えなどをお聞かせください。また、会員数の目標をどの程度に設定するのが望ましいのか、札幌市の人口との比較などで、加えて

お話し願えれば幸いです。

棟 私は専攻上いくつもの理工系の学会に加入していますが、どこも「会員拡大」が重要課題で、共通して財政運営とのからみがあります。

ただ、協力会は「美術文化の振興発展」に寄与するという目的に沿った、軌道の設定が大切です。「会員拡大」は手段であって目的ではない、会員が納得できる会の「灯」を人々の心にどうともすかです。



下田 開かれた組織である限り会員の拡充は望ましいことでしょう。また「アルテピア」が目的とするところを幅広く実現するには、

やはり会員は多い方がベターでしょう。ただ、札幌市の人口と比較して会員数を考えるのは、あまり意味がないように思います。会員数そのものが問題ではなく、いわば会としての「活動力」が大切だからです。

石 水 就任してまもないので、協力会自体の内容もまだよく理解しておりません。実情を把握してから、おいおいと思っております。

これからのアルテピア

め、当会の課題である「会員拡大と協力会のPR」について、紙上座談会の形式で忌憚のないご意見をいただきました。

(新理事5人の方は本誌11頁で、ご紹介しております。司会は、広報部ボランティア古畑部長が担当しました。)

ただ、私も企業人のはしくれでございますので、企業メセナという観点からも協力していきたいと考えております。

佐藤 協力会



そのものの存在をメディアを通じてアピールしていくことは勿論ですが、より、参

加対象の広がりが見られるようなイベントや継続的なセミナーの企画等で、美術作品やそれらの周辺環境へ触れる機会を設けること。また、他の美術館との連携した企画等の可能性を探ることも考えられるのではないのでしょうか。

山口 人口一七〇万人を超える札幌市です。会員一人も夢ではないと思います。会員拡大のため、例えば「協力会事業の個性を発揮するような「青空教室」「美術研修旅行」「美術のみの市」の開催

新理事に聞く

当会は、昨年創立20周年を終え、新たなスタートラインにたちました。このときにあたり、今年度の定例総会で選任された新しい5人の理事の方々に、就任の抱負を含

・マスクミヤインターネット当を道にPRする
・全道、全国的な規模で他の美術館との交流を図る

などがPR活動として考えられませんが、いかがでしょうか。

司会 次に伺いますが、昨年の協力会二十周年記念事業は「会員拡大とアルテピアの地名度アップ」を目的として実施したのですが、一応の成果を納めたものの、まだまだの感がありました。課題である「協力会のPR」についてお考えを願います。

佐藤 参加型、育成型の事業を通じて、美術館の持つ印象をより身近に感じられることを目指し、新たな会員拡大へと繋げていくことも必要と考えます。

下田 前問と関係いたしますが、

「会員拡大」と「知名度アップ」は一連のものでしょう。

残念ながら「アルテピア」の存在を知っている人は多くはない、と言うよりごく僅かです。知名度を上げるために、いい意味でのマスクミヤ利用（これまで以上に）も必要でしょうし、様々なサークルを通じての呼びかけなども考えられます。

棟 PRなど一概に言えないが、会



員を含めて世間が、会をどう思い何を感ず、何を求めているかの把握も大切です。裏返せば、それは「どう思わせ、何を感じさせるか」につながります。

雰囲気としては、ワンステップ（敷居）のある、着こなしの良い集まりといった感がありそうです。普段着のままの、お化粧なしの素肌のイメージがもっとあっていいと思います。

山口 会員拡大のひとつの方法として、年会費の見直しを考えてみてはどうでしょうか。

例えば、入会後三年目までの会員は年会費一万円。四年目以上の会員

は年会費九千円。七年目以上の会員は八千円。十年目以上はゴールドカードとして特典を更に加える等と変化させて、継続会員になることでメリツトがあるシステムにする・・・等々です。

司会 この度は、皆様には大変ご多忙のなかご協力いただき、貴重なご意見とご提言、誠に有難うございました。より多くの人々に、気軽に、楽しく、そして親しむ事業活動に参加を願うアルテピアについて、今後とも宜しくお願いたします。

楽しい協力会に！

役員懇談会の開催

本年度は、新理事五名を含む役員改選があり、円滑な会運営を期するため、去る七月二日、役員懇談会が開かれました。

武井会長の、今日の経済状況を交えて「いかに心豊に生きるか、一人ひとりが自分のためになる楽しい協力会にしよう」との挨拶で始まり、会員拡大と会の知名度アップの方策や事業内容について話し合われました。とりわけ新理事の活発で建設的な意見が注目され、この中のいくつかを理事会で協議し、実現を図る等が申しあわされて、有意義な懇談会でした。（出席者・・・各役員・事務局・ボランティア各部長 三十名）

ボランティア各部長 三十名

これからの音楽会

- 9月26日(土) 14:00~ 64回ミニ・リサイタル
- 11月7日(土) 14:00~ 45回コンサート
- 12月19日(土) 14:00~ 65回ミニ・リサイタル
- 1月23日(土) 14:00~ 66回ミニ・リサイタル
- 2月20日(土) 14:00~ 46回コンサート
- 3月6日(土) 14:00~ 67回ミニ・リサイタル
- 3月27日(土) 14:00~ 68回ミニ・リサイタル



♪♪♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪♪

第44回三岸好太郎美術館コンサート
～探訪記～

「オーボエと
ハープのパヴァーヌ」

岩崎 弘昌 (オーボエ)
柳田奈穂子 (ハープ)

♪♪♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪♪

六月六日(土)三岸好太郎美術館に於いてオーボエとハープのコンサートが行われました。

当日は好天にも恵まれ一六〇名を越す人々が訪れて、館内は超満員。

透き通るオーボエの音色と流れるようなハープが館内に響き、展示の絵の中のピエロもうっとりとした顔つきに感じられます。演奏の合間には、好きな美術館や楽器の話、聴衆の質問に答えるなど楽しい内容の催しでした。

この音楽会を行うことになった由縁について、担当学芸員に尋ねてみました。

「三岸好太郎の作品『オーケストラ』にちなんで企画したもので、年三回現在活躍中の演奏者が行う『コンサート』と、若い演奏者による『ミニ・リサイタル』を開催しています。また音楽会を通して美術館を身近に感じてもらいたいという願いがあります。」とのこと。

美術館での音楽会は最近よくみかけるが、展示室内というのはめずらしい。展示室は、床が御影石、天井は吹き抜けで音響もなかなかよく、聴く側はもちろん、演奏者にも好評のようでした。

これからも、多くの方に親しんでいただきたいものです。



ビデオ・ライブラリーを
ご存じですか？

作品鑑賞の後には
美しい映像を見ながら
至福のひとときを！

北海道立近代美術館の一階ホール奥には、美術についてのさまざまなプログラムを選んでご覧いただけるビデオ・ライブラリーがあります。

三つのブースに分かれており、ひとつは、オルセー美術館と、ルーブル美術館の収蔵作品。あとの二カ所は、北海道立近代美術館の収蔵作家、ひとりひとりにスポットをあてたものを中心に、十八プログラムが用意され、近代美術館オリジナルの映像を楽しむことができます。

これは、当美術館が開館以来、ほぼ一年に一本の割合で制作してきたもので、春には新作も登場します。すでにご覧になった方も、まだご覧になったことのない方も是非お立ち寄りください。

また、ビデオ・ライブラリーに関しての、ご意見、ご要望等ありましたら、ご遠慮なくおきかせいただきたいと思います。

道立近代美術館 学芸第二課
☎〇一―六四四―六八八一

ARS (道立近代美術館一階ホール奥) 質問コーナー、図書コーナー、ビデオライブラリーがあります。美術や展覧会に関する情報を提供しており気軽に利用できます。

MUSEUM CALENDAR

'98. 9月～'99. 3月

美術館の展覧会ご案内

| | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|-----------------------|--|---|---------------------------|--|--|--------------------------------|---|
| 近代美術館 | 9/5～10/18 東郷青児展 | | 貸 館 | 11/21～12/20 一原有徳展 | 12/25～1/31 A★MUSE★LAND'99 | 2/6～3/14 オーストラリアの 現代工芸展 | |
| 旭 川 | 9/19～10/18 美と土俗—— 近現代美術の中の “日本” | | 10/24～12/20 永井豪 世紀末展 | | 1/5～3/20 旭川美術館コレクション選 | | |
| 函 館 | 8/15～9/13 山下りんと その時代展 | 9/20～10/18 毎日書道展 50回記念 日本書の現在 | 10/24～12/6 世界のポスターアート展 | 貸 館 | 1/5～2/7 版画にみる ホイッスラーから ウォーホールまで | 2/14～3/20 道南の美術IV 響きあう個性 | |
| 帯 広 | 9/4～10/2 モネ、ルノワールと 印象派の画家たち | 10/9～12/2 ヨーロッパの名窯 リモージュの輝き—磁器名品展— アンドリアン・デュブシェ 国立美術館所蔵 | | 12/18～3/24 帯広美術館コレクション選集 現代の版画/道東の美術 | | | |
| 三 岸 好 太 郎 | 9/4～10/4 所蔵品展 | 10/9～11/29 美の使徒—— 林竹治郎とその教え子たち | | 12/3～3/28 所蔵品展 メルヘンとポエジーの画家 | | | |
| 札幌彫刻 | 8/28～10/11 第9回北の彫刻展 | 10/17～4/4 平成10年度後期収蔵品展 1970年代にみる本郷新の作品展/コレクション展 | | | | | |
| 札幌芸術の森 | 9/5～10/11 菊地又男展 | 10/18～1/24 北の創造者たち'98～平面の断章Ⅲ | | | | 1/30～3/28 芸術の森美術館所蔵品展 | |

道立近代美術館主催 平成10年度移動美術館

移動美術館'98北海道立近代美術館所蔵品による

美へのいざない——パリに生きた画家たち

シャガール、バスキン、ローランサン…

積丹町 平成10年9月9日(水)～9月13日(日)

東神楽町 平成10年9月25日(金)～9月29日(火)

滝川市 平成10年9月17日(木)～9月22日(火)

置戸町 平成10年10月2日(金)～10月6日(火)

* 9月21日(月)は休館

新冠町 平成10年10月9日(金)～10月13日(火)

入 場 無 料

MUSEUM

INFORMATION

平成10年度下半期の展覧会の中から、各館が推薦する事業をお知らせします。

近代美術館では、小樽在住異色の版画家、一原有徳の油彩画から大版作品を含めた各ジャンルの作品を紹介。

帯広美術館で開催されるモネ、ルノアール、ゴッホと印象派画家たちの油彩画展覧会をはじめ、各館で魅力あふれる美術展が企画されています。

近代美術館

生成するマチエール

一原有徳・版の世界

十一月二一日(土)〜十二月二〇日(日)

一九一〇年生まれ版画家・一原有徳は、今年八八歳になります。小樽に在住し、現在も現役作家として旺盛な創作活動を続けています。

一原は五〇歳になる年に版画家としてデビューした異色の作家です。これ以前の彼は、道内の山々を踏破した岳人、また俳人として名が知られていました。版画に取り組むようになったのは、パレットがわりに使っていた石版石の上の絵の具の図像に興味をもち、それを紙で刷り取ったことに始まったという、偶然のきっかけによるもので



「Z30. a」1964年 アート・フロント・ギャラリー蔵

この展覧会では、版画を始める前に描いていた油彩画から、大版作品を含めた各ジャンルの作品、さらに最新作までの約三〇〇点の作品によって一原有徳の「版の世界」を一望します。

した。以来、これを発展させたモノタイプ(一枚しか刷ることのできない版画)や腐食させたりたいたりした金属板を版とした金属凹版、レリーフ状のオブジェ、さらに「熱版」など従来の版画の概念を超えた制作を次々と展開し、これまでに国際的にも高く評価されてきました。

旭川美術館

美と土俗―近現代美術の中の「日本」

九月一九日(土)〜一〇月一八日(日)

この展覧会では、萬籟五郎、棟方志功、片岡球子、岡本太郎、桂ゆき、という五人の個性的な近現代の作家を紹介します。

これらの作家は、いわゆる「近代的」という枠におさめることのできない、幅の広い特色を持っています。それは、民俗性、風土性、装飾性、アニミズムの性格などで、そこには、今日の日本人、あるいは文明人が失いつつある根源的な世界へとせまる迫力がうかがえます。彼らは、最近、いろいろな学問の分



岡本太郎「森の投」1950年 川崎市岡本太郎美術館準備室蔵

野で復権してきた「縄文的なるもの」の性格を持った作家たちといえるのではないのでしょうか。それは、古来、美の歴史の中でも脈々と生命を保ち続けているのです。

西洋文明、近代文明がさまざまな形で批判されている今日、いまだ一度、これらの作家を見つめ直し、その生命力に富んだ造形に触れ、人の生のあり方や、人と自然の関係を考えていただければと思います。

函館美術館

版画に見るホイットスラー

からウォーホールまで

一月五日(火)〜二月七日(日)

版画の領域においてアメリカ人作家が果たしてきた役割は、決して小さなものではありません。一九世紀後半のパリで活躍し、エッチングの技法においては衆人を感じさせたホイットスラーにはじまり、シルクスクリーンによって「製品」を製作するように美術作品を生み出し、一九六〇年代以降の美術に世界的な影響を与えたウォーホールに至るまで、あふれる実験精神によっ



LOAN Andy Warhol Liz, 1964

ジー州、ジマーリ美術館の有数のコレクションによってたどりま

て次々とその表現世界を拡張し、「版画」そのものの概念を大きく変化させてきたのです。

今回の展覧会では、前述の作家の他にホッパー、ラウシェンバーク、ステラなど約四〇人のアメリカ人作家に改めて焦点を向け、一八八〇年代から一九八〇年代までの約一世紀にわたる版画芸術の変遷を、アメリカはニューヨーク、

帯広美術館

モノ、ルノワール

印象派の画家たち

九月四日(金)～一〇月二日(金)

一九世紀後半のフランスに起った印象派は、近代美術における最も重要な絵画運動といえます。自然の光や大気の揺れ動きをとらえる画法、近代的なモチーフの選択といった印象派の革新性はヨーロッパのみならずアメリカや日本など同時代の美術に大きな影響を及ぼしました。光と色彩の再現を目指した印象派の運動は、やがて光学理論に触発された新印象派のグループを生み出します。さらに、その色彩の開放

や理論性の追究は、フォーヴィスムやキュビスムをはじめ二〇世紀の画家たちへと受け継がれていきました。

この展覧会では、ヨーロッパ各地に所蔵される作品により近代絵画の出发点ともいえる印象派のたどった道筋とその広がりを展望します。モネ、ルノワールなどの印象派の画家たちや、シニャック、ゴッホ、ゴーギャン、ヴラマンクなど印象派に大きな影響を受けた画家たちの油彩画六一点を紹介し



ルノワール「アルフレッド・シスレー夫妻」

三岸好太郎美術館

美の使徒―

林竹治郎とその教え子たち

一〇月九日(金)～十一月二九日(日)

明治四〇年の第一回文展に「朝の祈り」で北海道からただ一人入選を果たした画家林竹治郎は、明治末から大正にかけての北海道美術教育の第一人者でもあります。

宮城県生まれの林は、東京美術学校(現東京芸術大学)卒業後、岡山や福島で教職につき、明治三二年に北海道へ赴任、昭和一四年に札幌を離れるまで長年に渡って美術教師として後進の育成にあたりました。中でも三〇年近



林竹治郎「朝の祈り」

くを過ごした札幌一中(現札幌南高校)の教え子たちからは、中原悌二郎、三岸好太郎、俣野第四郎、久保守ら多くの作家が出ています。林は教え子たちに絵画の基本を教え、その指導、激励によって芸術の道を歩んだ者は少なくありません。

林が美術教師として後進を育てた時期は、道産子第一世代の画家が巣立つ北海道美術の青春期にあたります。本展は、林とその教え子たちの作品を紹介し、北海道美術における一つの時代を展望するものです。

札幌彫刻美術館

第9回北の彫刻展

八月二八日(金)～一〇月二日(日)

「北の彫刻展」は、昭和五七年度より北海道を活動の拠点とする彫刻家による展覧会として隔年で開催してきました。平成一〇年度は、第九回を迎えます。

出品作品は、木、樹脂、石などあらゆる素材を用いられ、作家の自由な発想による表現された最近作で構成されています。そのため、人体をモチーフとした作品、抽象作品、インスタレーションなど多彩です。

今回は、二四人の作家、約三〇点の

作品が出品されます。作家の中で、一回から毎回出品していただきました坂垣道、山本晃作両氏が故人となり、ご遺族のご理解・ご協力により遺作としてご出品いただきました。

二年という年月の中で、どのように変遷していったのか。作家各人の作品にこめられたメッセージを展覧会でご覧いただけます。



坂垣道「木かけ」

芸術の森美術館

菊地又男展

九月五日(日)～一〇月二日(日)

「異端と反骨で過ぎた半生期。優等生にも褒章にもめげず、唯ひたすら自分自身に忠実に生きた芸術至上主義だけは通してきたつもり。貧しくも満足した心だけがささやかに誇りに思っております。」一九九三年に開催した喜寿展に寄せて菊地又男(一九六一)はこう述べています。彼は、一六歳で道展、二一歳で独立展に入選、一九六九年の第一回全道展で協会賞を受賞するなど、早くからその才能を認められていました。しかし、それまでの美術情況に満足せ



菊地又男「双子」

主軸に、初期から最新作までの油彩画やカラージュ作品により彼の画業を紹介し

札幌に生きて



杉谷 和子

熊本生まれ、大阪育ちの私が夫の転勤で札幌に住みついで、早くも十二年目になってしまいました。子育てのほとんどを過ごしました。

絵を鑑賞したり、ミュージカルを見るのが好きな家族ですし、長女はグラフィックデザイナーの道を歩もうとしていて、札幌は最良の地になりました。

家の近くのモエシ沼公園も着々と工事も進み、先日一部オープンして、イサム・ノグチの遊具としての彫刻に、直接触れることができます。遠くに出掛けなくても身近に、芸術に出会える札幌はすばらしいと思います。芸術の森のイサム・ノグチ展へも出掛ける予定です。

日頃は、寝たきりの私の母を、父と二人で介護している身ですが、父は老人クラブの旅行、私は芸術鑑賞でと、つかの間のリラックスタイムを取るように努めています。

いつまで札幌に居られるかわかりませんが文化都市札幌を大いに楽しむつもりです。

近き芸術

今回も、日頃から美術に親しみ、大いに楽しんでいらっしゃる会員の方に、思いをつづっていただきました。

又、学芸員の目を通して頂いた美術研修旅行についてもお願いしました。

これからも、会員の皆様、どしどしお便りをお寄せください。お待ちしております。

美術研修旅行記



道立三岸好太郎美術館学芸員 佐藤由美加

五月二六日から二九日まで第一六回美術研修の旅に同行し、愛知・滋賀・兵庫の美術館を訪問しました。

最終日に訪ねたのは、神戸市立小磯良平記念美術館と兵庫県立近代美術館の二館で、小磯良平と親交のあった田中忠雄の回顧展を開催中でした。札幌で牧師の子として生まれた田中が、キリスト教をテーマとするようになったのは戦後のことで、敗戦後の日本の状況を聖書中のローマ占領下のエルサレムに重ねたのがその契機となっ

ています。一日目の訪問先名古屋市美術館の「日本のリアリズム一九四五―一九六〇」展では田中の「基地のキリスト」が出品されており、両展をあわせて鑑賞すると、画家に聖書世界を描かせたものをより深くリアルに感じることができました。

県立近代美術館のテート・ギャラリー展は、今回のメインでもあり、参加者の目を楽しませました。また、小磯良平記念美術館が展示スペースの多くを特別展にさいっていたことに寂しさを感じていた小磯ファンが、同美術館の小磯良平記念室で、目を輝かせていた姿が印象に残っています。

好奇心は∞ 無限大



松本 静江

日本海の漁村、背後には暑寒の山並み、麓には一面果樹園が。四季折々朝に夕に、陽光、雲、風と共に塗り替えられる故郷の風景は、宛ら一枚の絵！激しくて厳しくて穏やかで温かい。なぜかいつも元気を与えてくれた。そして見・感じることの幸せを身体で覚えたのかも…。

お友達の紹介で、協力会の会員になつてからは、娘と二人、街中のギャラリー巡りに増して、近美、三岸美芸森に足を運ぶ機会が多くなった。すばらしい作品との出会い、その空間に足を踏み入れた時の充実感はとても心地良い。

多くの感動をいただける。最近始めた水墨画は、心に静寂を置いてくれる。宮本 三天の号を持ち、減筆体の鋭い水墨画を描いていたのが、剣豪宮本武蔵とは…。

学んでますます興味が湧いてくる。そのうちドームやガレの作品に描かれた世界もちぎり絵で描いてみたい。作る喜び、見る幸せ、これからも私の好奇心は∞（無限大）。

'98つどいの開催

総会終了後引き続き一階ロビーで実施

グラスを片手に談笑、お皿に盛った料理を愛でながらの交流…。静かにお澄ましの道立近代美術館のロビーもこの日ばかりは楽しく賑やかで、おいしい顔で溢れます。参加者一同に和やかさが広がり、小さな輪が出来、笑い声がテーブルを囲んでいます。おだやかな「時」に身を任せつつ終ってみれば札幌の一番いい季節の夕暮れでした。

六月二日(火) 約一五〇人出席



～程よいワインの香りの中で～

新会員紹介

平成10年3月～平成10年7月
(敬称略)

—ご入会ありがとうございました—

3 月

札幌市 檜山志乃
// 村上純子
帯広市 脇坂真美
札幌市 塩谷えり子
// 田附清隆
// 遠藤洋子
// 上田美穂子
// 及川ミチ子
// 廣田則子
// 佐藤美智江
// 田垣博章
// 浅野敏子
// 二宮喜久子
千歳市 愛澤光司
枝幸町 須田恵美子
虻田町 高野ケイ
小樽市 菊地清子
札幌市 石澤鴻史
// 千葉正直
// 佐藤順
// 中村博行
// 白木みよ子
// 酒井五十雄
// 久保田道子
// 田上光子
// 小寺朋美

4 月

長沼町 二部エイ子
岩見沢市 小川亮三
札幌市 竹島幸
// 浜辺ミヤ
// 柴田富子
// 奈良正子
// 西森光子
// 谷幸子
// 大形愛子
// 和泉勝子
// 神谷久子
// 伊藤はるみ
// 星山栄子
// 中村美紀
// 青木道子
// 花尻真樹子
// 杉谷美恵子
江別市 波田浩司
// 井伊百合子
石狩市 坂本啓子
札幌市 竹内登美子
// 梅本順子
// 吉田良子
// 古川珠枝
// 河崎ふじ子
// 中川真佐子

札幌市

高橋淑子
磯田エツ子
// 五十嵐佳子
// 田村一子
// 和田恵子
// 萩原敬子
旭川市 宮崎晃
札幌市 斎藤美百合
// 服部国男
// 石川溶子
// 我妻真弓
// 牧富子
// 渡辺まり

5 月

札幌市 越智公子
// 関水はるみ
// 伊原成美
// 勝木英
恵庭市 宮田修子
// 高橋正彰
千歳市 下山真喜子
倶知安町 美馬美江子
旭川市 大須賀順子
札幌市 菊地賢子
// 星展子
// 深見陽子
// 新井朱美
// 山田悠貴子
// 三岩川子子
// 田池田田光
// 仙田繁正
// 長谷邦由香里
// 青山由香里
// 石川ゆり子
// 牧野紀夫
// 斎藤美陽子
// 山塚本京

札幌市

坂本備子
// 福富路子
// 糸田百々子
// 蝶野トシエ

6 月

札幌市 池上純子
江別市 福田不二子
札幌市 大内博子
// 大内輪俊子
// 小澤宣子
// 高木優恵
// 伊藤康二
// 能登美代子
// 神野久美子
// 中野一枝
// 小岩椒
// 中恵成子
// 吉岡和一郎
帯広市 村上早苗
余市町 吉田裕子
江別市 佐土根脩
石狩市 福田紀子
札幌市 坂田道子
// 佐藤文彦
// 前田節哉
// 馬場修一
// 上田利子
// 安村山三子
// 小安山三子
// 石水野真子
// 榎田豊敦子
// 安黒高鈴子
// 高松本藤喜久男

札幌市

小林明恵

// 小大石正和

7 月

小樽市 山田實子
// 寺田静子
千歳市 郡山茂幸
札幌市 早川江津子
// 斎藤香
// 大室正瑞
// 大場めぐみ
// 木村麻美子
// 多田和恵子
// 村岡和博
// 岡村雅博
// 大島真実子
// 横山泰子
苫小牧市 茂呂洋造
札幌市 中村斗久栄
// 高橋映子
// 林雅巴
// 志道睦子
// 小田達也
新十津川町 佐藤厚子
江別市 長橋敦
室蘭市 奈良マサ子
札幌市 佐々木千草
// 北由花里
// 曙和義
// 佐藤紀美子
// 小川原孝喜
// 竹内川好正
// 吉川吉人
// 宮本真智子
// 深橋本野子
// 草野由起子
北広島市 村上良平
釧路市 荒谷宏

◎当会では五年毎にボランティア活動の記録を冊子にしております。編集から発行まで全てボランティアの手によるもので、本年三月四回目の五年誌を発行、道内外の関係方面に配付、好評を得ております。在庫に若干余裕がありますので、ご希望の方は近美2F売店でお求め下さい。
A5版一二〇頁
一部 六〇〇円(消費税別)

事務局だより

平成10年度総会開かれる

「九年度事業報告・収支決算と今年度事業計画・収支予算及び役員選任等について」

去る六月二日道立近代美術館講堂において平成一〇年度の通常総会が開催され、平成九年度の事業報告・収支決算、平成一〇年度の事業計画・収支予算がそれぞれ原案どおり承認可決されました。また、平成九年度末任期満了にともなう役員改選等も行われ、これについても原案どおり承認可決されました。

その概要を次に報告します。

*平成九年度分の事業報告は、定款の定めによる事業を実施したほか、創立二〇周年記念事業も併せて実施しました。(計画は「会報第三二号」掲載)

二〇周年記念事業分は美術振興基金積立金を取り崩しての収支決算ですが、一般会計に一時受け入れてからの収支となっております。

*収支決算については次のとおりです。決算は表1と、表2は二〇周年記念事業分です。

*会員数については、法人・個人会

(表1) 平成9年度収支決算総括表

(単位：円)

| 収 入 の 部 | | | | | 支 出 の 部 | | | | |
|----------|------------|------------|------------|------------|----------|------------|------------|------------|------------|
| 科 目 | 合 計 | 一般会計 | 特 別 会 計 | | 科 目 | 合 計 | 一般会計 | 特 別 会 計 | |
| | | | 売店会計 | 駐車場会計 | | | | 売店会計 | 駐車場会計 |
| 基本財産運用収入 | 24,000 | 24,000 | 0 | 0 | 事業費 | 52,383,855 | 12,280,079 | 23,668,468 | 16,435,308 |
| 費収入 | 16,185,000 | 16,185,000 | 0 | 0 | 管理費 | 6,702,610 | 6,702,610 | 0 | 0 |
| 事業収入 | 43,881,271 | 723,811 | 25,584,847 | 17,572,613 | 特定預金支出 | 9,907,439 | 9,907,439 | 0 | 0 |
| 寄付金収入 | 100,000 | 100,000 | 0 | 0 | 繰入金支出 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特別収入 | 7,477,699 | 7,477,699 | 0 | 0 | 予備費 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収入 | 2,510,568 | 2,497,529 | 5,441 | 7,598 | 当期支出合計 | 68,993,904 | 28,890,128 | 23,668,468 | 16,435,308 |
| 当期収入合計 | 70,178,538 | 27,008,039 | 25,590,288 | 17,580,211 | 当期収支差額 | 1,184,634 | △1,882,089 | 1,921,820 | 1,144,903 |
| 前期繰越収支差額 | 21,362,929 | 3,016,483 | 13,919,716 | 4,426,730 | 次期繰越収支差額 | 22,547,563 | 1,134,394 | 15,841,536 | 5,571,633 |
| 収入合計(B) | 91,541,467 | 30,024,522 | 39,510,004 | 22,006,941 | 支出合計(B) | 91,541,467 | 30,024,522 | 39,510,004 | 22,006,941 |
| 予算額(A) | 91,980,000 | 27,770,000 | 43,908,000 | 20,302,000 | 予算額(A) | 91,980,000 | 27,770,000 | 43,908,000 | 20,302,000 |
| 差異(A-B) | 438,533 | △2,254,522 | 4,397,996 | △1,704,941 | 差異(A-B) | 438,533 | △2,254,522 | 4,397,996 | △1,704,941 |

(表2) 創立20周年記念事業会計収支決算

(単位：円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 備 考 | 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 備 考 |
|----------|------------|------------|----------|-----------------|----------|------------|------------|------------|--|
| 繰入金収入 | 7,395,000 | 7,395,000 | 0 | 美術振興基金取崩受入 | 事業費 | 8,136,000 | 7,609,039 | 526,961 | 記念事業(期間H9年6月～12月10事業実施)諸経費 臨時職員賃金、通信・事務用品費、推進委員会等諸経費 美術振興基金に戻入 |
| 費収入 | 1,715,000 | 1,434,000 | 281,000 | 記念祝賀会費 | 事務局費 | 1,125,000 | 616,578 | 508,422 | |
| 補助金収入 | 750,000 | 600,000 | 150,000 | (財)道文化財団補助金 | 予備費 | 1,200,000 | 0 | 1,200,000 | |
| 協賛・寄付金収入 | 0 | 507,690 | △507,690 | 協賛7社・チャリティー基金等 | 当期支出合計 | 10,461,000 | 8,225,617 | 2,235,383 | |
| 売上・雑収入 | 2,000 | 239,697 | △237,697 | 映画フеста前売・預金利息等 | 当期収支差額 | △599,000 | 1,950,770 | △2,549,770 | |
| 当期収入合計 | 9,862,000 | 10,176,387 | △314,387 | | 次期繰越収支差額 | 0 | 2,551,226 | △2,551,226 | |
| 前期繰越収支差額 | 599,000 | 600,456 | △1,456 | | 支出合計 | 10,461,000 | 10,776,843 | △315,843 | |
| 収入合計 | 10,461,000 | 10,776,843 | △315,843 | | | | | | |

- 員合計で一、五九九人、前年比九八人の増でした。
- *平成一〇年度の事業計画は定款の定めによる次の事業を実施します。
- 一 道立美術館の事業活動に対するボランティアの協力
 - 二 道立美術館等の事業活動に対する援助協力
 - 三 美術館観覧拡大への協力
(会員証利用にかかる七館への観覧料の負担)
 - 四 美術館普及活動への協力
(会報発行・ポスター配布・展覧会案内送付等の広報活動及び館外での美術館普及活動)
 - 五 美術講座の実施
(四月から九月まで一六講座)
 - 六 「つとよい九八」の実施
(通常総会終了後開催)
 - 七 「子供の青空教室」の実施
(石の動物王国をつくる)
 - 八 道外・海外美術研修旅行の実施
 - 九 図録・絵はがき等の作成・頒布
 - 十 「美術館協力会賞」の贈呈
- 学生美術全道展への後援と賞の贈呈(受賞者には副賞として海外美術研修旅行招待)

(表3) 平成10年度収支予算総括表

(単位：千円)

| 区分 | 収 入 の 部 | | | | | 支 出 の 部 | | | | | |
|-----------------------|----------|--------|--------|--------|-----------------|----------|----------|----------|---------|----------------|--------------|
| | 科 目 | 予算額 | 前年度額 | 差 異 | 備 考 | 科 目 | 予算額 | 前年度額 | 差 異 | 備 考 | |
| 一 般 会 計 | 基本財産運用収入 | 60 | 60 | 0 | 定期預金利息 | (事業費) | (13.765) | (12.195) | (1.570) | | |
| | 会費収入 | 16.120 | 16.020 | 100 | 法人・個人会員等年会費 | 美術活動費 | 12.150 | 11.425 | 725 | 会員観覧料、V活動費等 | |
| | 事業収入 | 1.500 | 1.000 | 500 | 美術講座受講料等 | 美術講座費 | 940 | 570 | 370 | 美術講座講師謝金・資料作成等 | |
| | 寄付金収入 | 10 | 10 | 0 | | 美術研修費 | 270 | 200 | 70 | コーディネーター旅費等 | |
| | 繰入金収入 | 2.005 | 10 | 1.995 | 駐車場会計から繰入 | 美術顕彰費 | 405 | 0 | 405 | 美術優秀創作活動顕彰事業費 | |
| | 特別収入 | 100 | 7.585 | △7.485 | 20周年事業終了、基金積立利息 | 管理費 | 6.980 | 7.066 | △ 86 | 運営管理経費 | |
| | 雑収入 | 40 | 85 | △45 | 普通預金利息 | 特定預金支出 | 0 | 7.395 | △7.395 | 20周年記念事業終了 | |
| | 前期繰越金 | 1.130 | 3.000 | △1.870 | | 予備費 | 150 | 250 | △ 100 | | |
| | 合 計 | 20.965 | 27.770 | △6.805 | | 繰越収支差額 | 70 | 864 | △ 794 | | |
| 合 計 | 20.965 | 27.770 | △6.805 | | 合 計 | 20.965 | 27.770 | △6.805 | | | |
| 特 別 会 計 | 売店会計 | 事業収入等 | 30.008 | 30.008 | 0 | 売上収入 | 事業費等 | 30.027 | 29.272 | 755 | 仕入、貸金、施設賃借料等 |
| | | 前期繰越金 | 15.840 | 13.900 | 1.940 | | 繰越収支差額 | 15.821 | 14.636 | 1.185 | |
| | 合 計 | 45.848 | 43.908 | 1.940 | | 合 計 | 45.848 | 43.908 | 1.940 | | |
| 駐 車 場 会 計 | 駐車場会計 | 駐車場収入等 | 16.408 | 15.902 | 506 | 駐車場使用料収入 | 事業費等 | 19.891 | 17.886 | 2.005 | 管理委託料、土地借上料等 |
| | | 前期繰越金 | 5.570 | 4.400 | 1.170 | | 繰越収支差額 | 2.087 | 2.416 | △329 | |
| | 合 計 | 21.978 | 20.302 | 1.676 | | 合 計 | 21.978 | 20.302 | 1.676 | | |
| 総 合 計 | 88.791 | 91.980 | △3.189 | | 総 合 計 | 88.791 | 91.980 | △3.189 | | | |

十一 会員の拡大
十二 売店・駐車場の経営

* 収支予算については、表3のとおりです。
* 会員の資格喪失については次のとおりです

定款第九条の規定で、会費を二年分以上納入しないときは除名するとしてあり、これに該当した個人会員五五名を資格喪失としました。
* 役員の見任については次のとおりです。

(退任)

今井リツ、小川 亨、木村和男、堂垣内香千枝、八木一郎の各理事
計五名

(新任)

石水 勲 (石屋製菓株式会社代表取締役社長)
佐藤 斎 (㈲アトリエエヌ代表取締役)
下田 經 (㈱道新サービセンター社長)
棟 徹夫 (北見工業大学名誉教授)
山口節子 (㈱モーターワークス札幌取締役)
の各理事 計五名

(再任)

前記(退任)・(新任)以外の理事・監事を再任。

理事 二三名
監事 二名

(※ 理事会では、会長・副会長・専務理事は留任を決めました)

・役員一覧

| 役職 | 氏名 | 職業等 |
|------|-------|--------|
| 会長 | 武井正直 | 銀行頭取 |
| 副会長 | 木路毛五郎 | 美術評論家 |
| 専務理事 | 鈴木英一 | |
| 理事 | 大菅生明 | |
| | 阿部三恵 | 団体役員 |
| | 安念正義 | 会社役員 |
| | 伊坂重孝 | 会社社長 |
| | 石水 勲 | 〃 |
| | 岩田 泰 | 団体役員 |
| | 石川 浩 | 団体役員 |
| | 浦田 久 | |
| | 植村 敏 | 会社役員 |
| | 木内和博 | 工芸館長 |
| | 小杉八千代 | 団体役員 |
| | 小林敬明 | 会社役員 |
| | 斎藤 一郎 | 会社社長 |
| | 佐藤 斎 | 会社役員 |
| | 繁富文承 | 会社社長 |
| | 下田 經 | 〃 |
| | 杉本 拓 | 〃 |
| | 杉本 互 | 会社役員 |
| | 関川節子 | 団体役員 |
| | 相馬久子 | 〃 |
| | 谷 貴子 | 〃 |
| | 高橋英雄 | 学校理事長 |
| | 棟 徹夫 | 大学名誉教授 |
| | 山口節子 | 会社役員 |
| | 和田王三 | 弁護士 |
| | 馬場 昭 | 会社社長 |
| | 藤井勇吉 | |

美へのかけ橋

アルテピア会員募集

私たちが好きな絵を

～1977年設立主旨～

会員の声

3月に会員になりました。主人と、高校のクラブ活動で美術科に入っていた娘達と時間をつくり、美しいものを見て、「目を養い心豊かに」したいと思っています。

H10年入会 佐藤 幸子
(会員申込み アルテピア 北海道美術館協力会

「絵を見るのが好き」ということと、絵を見て違う世界に身をおくことも楽しい。そして色使いや絵の構図がお花を活ける時に参考になっているような気がします。S58年入会 黒澤 伸子

札幌市中央区北2条西17丁目 電話 011-644-4025)



近代美術館売店商品

平成10年度映像フェスティバル
アート・ドキュメンタリー映画祭2

一九九六年近代美術館での開催に続く第二回目。アートという概念そのものが広義で、それぞれのジャンルを越え、交わりながら展開される世界である。そうした世界を独自の方法论と視点をもって映像作家がフィルムの世界に記録していくのがアート・ドキュメンタリーである。

日時 九月七日(木)・八日(金)

一九日(土)・二〇日(日)・二四日(木)・

二五日(金)・二六日(土)・二七日(日)

会場 道立近代美術館講堂 入場無料
上映作品

*リチャード・アヴェンドン : 闇と光

一九九六 アメリカ

*イヴ・サンローラン 一九九四 フランス

*フラメンコ 一九九五 スペイン 他多数
上映時間など、詳細は近代美術館へ。

編集後記

いま協力会では、多くの人達に「何時でも、気軽に、美術に親しむ機会をより多く……」をスローガンに、心豊かな生活を送ってもらうことを念願して、事業活動を展開しております。この活動をより活発にするためには、やはり会員拡大が前提で、会員一人が知人・友人の一人を誘い頂くと倍増になります。何卒ご協力の程を併せて積極的な提言・意見等の投稿を広報部員一同鶴首してお待ちしています。